

メール

前川美和

佐倉純子は今年 51 歳になる。天王寺にある専門学校で留学生たちに日本語を教えている。4 年前梅田に開校された私学の夜間の大学院に入学し、言語学を学んだ。純子がかつて出た学部は生活に密着した科学を学ぶ理系の学部だったので、言語について本格的に勉強したことがなかったのだ。日本語を教えることを仕事にしている以上、常々言語に関する基本的な知識は不可欠だと思っていたから、仕事帰りに学べる場を得て、純子は頑張った。そこに集まった学生は二十代から六十代までと年齢は幅広かったが、大半は英語の教師だったこともあって、ネイティブの講義は付いていくのがやっとだった。毎回いくつもの英語の文献を読んで予習したり、割り当てられた文献を要約したり、英語でのプレゼンテーションを考えるのは辛かったけれど、勉強しているという充実感があった。修了にあたっては課題論文が課せられていて、入学時にアドバイザーとして紹介されたのが加藤孝先生だった。先生の第一印象はとにかく地味で硬い感じだったので、話しにくそうだと少々がっかりした記憶がある。

純子は論文に「誤用分析」を考えていた。留学生たちの書いた作文の中の不自然な表現、特に語彙に関する日本語の誤用を集めたら、国によって異なる傾向が見られるのではないかと期待していた。それが分かれば、効果的な指導が可能になるかもしれない。加藤先生は時折サンプル収集の進捗状況を尋ねたり、参考文献を紹介したりするメールをくれたが、純子は論文に関してはなかなか真剣に取り組めないでいた。冬休みに入る前の授業の帰り、たまたま加藤先生と天王寺まで一緒になる機会があった。直接話してみて、その優しい人柄と豊富な知識に触れ、おもしろい話を聞くうちに、すっかり先生のファンになった純子は今まで先生のアドバイスに向き合って来なかった自分の態度を反省した。それ以来、誤用の背景には各文化の持つメタファーの違いが関係しているという仮説を立てて、サンプルを整理することに努め、どうにか論文を書き上げた。口頭試問も無事に終え、修了が認められたとき、加藤先生は本当に喜んでくれた。修士課程を修了してからも、純子は先生に近況や、言語やティーチングに関する質問をメールした。それに対して、丁寧に返信してくれる加藤先生を純子は人生の師と心に決めた。

2 年後、大学院の紀要に論文を書く決心をした純子はここでも加藤先生の指導を仰ぐことになった。中国と韓国からの学生の誤用の中で「個性」「才能」「素質」とともに用いられる動詞に注目した。彼らが誤用に至るのはその 3 語の持つメタファーが日本語と中国語と韓国語で異なるからだと言う仮説を立て、誤用サンプルを分析し、仮説を検証していった。一応書き上げてたものを先生に送ってみてもらったところ、数か所に疑問符が打たれていた。

2006 年 3 月 5 日

加藤先生

紀要についての先生のご指摘について質問があります。

まず、「個性」「才能」「素質」に共通する第一のメタファーのところで、「個性がある」「個性を持つ」「個性がない」「才能が備わる」等に現れる動詞を見ると、主体が何かを所有し

ているという意味を持つと述べたところに、先生が「する言語」と「ある言語」への配慮をすべきとのコメントを書き込んでくださっていましたが、どんな形であればいいですか。それと、3語以外の他の言葉についても、そのメタファーが成立している例証をするようにご指摘がありました。なぜですか。

きょうはちょっと春めいていますね。わたしは4月から外国語大学でタイ語を科目履修するつもりです。タイで日本語を教えてみたいのです。気候が不安定です。体調管理ばかりなくお過ごしください。では、また。

3月7日

メール拝読しました。ご質問について補足説明します。

英語は「人が何かをする」というような表現を好む(DO-Language)で、日本語は「自ずからそのようになる」というような表現を好む(BECOME-Language)であると多くの方が指摘しています。同様の観点から英語は人間中心の言語であり、日本語は状況中心の言語であるという指摘もあります。また、「する」的な言語は同時に所有表現を好む「持つ」的な言語(HAVE-language)であるのに対して、「なる」的な言語は存在表現を好む「ある」的な言語(BE-Language)であるとの指摘もあります。それらについては安藤貞雄、池上嘉彦らの先行研究がたくさんあります。こうした先行研究に目配りしながら論文を書く必要があります。特に佐倉さんの論文は意味に注目しているわけですから、これらの先行研究が大いに関係してきます。

次に例証についてですが、佐倉さんの論文には「個性、才能、素質は何かに所有されているものであるというメタファーが浮かび上がってくる」と記されていました。構造メタファー(Structural-Metaphor)とはレイコフとジョンソンにも記されているように、ある概念が別の異なる概念に基づいてメタファーによって構造を与えられている場合のことを言います。ここで、ある概念と別の概念は明確にしておかなければなりません。いずれにしても、メタファーが関わっているとすれば、「個性」「才能」「素質」の3語についてだけでなく、これら以外のいくつもの語(資質もその一つ)についても、そのメタファーが成立していることが予想されますので、それを例証できれば、メタファーの妥当性が検証されるのです。

3月12日

加藤先生

丁寧なコメント、ありがとうございました。「ある」と「する」に関する参考文献、読んでみます。レイコフも復習します。今のままではメタファーの羅列になってしまって、考察まで進めないですね。

9月4日

加藤先生

論文についての質問です。レイコフは客観的な無条件、あるいは、絶対的な真実の存在を否定し、真実は常に概念体系との相対的な関係によって決まる、つまり、真実は人間の

概念体系の本質をなす様々なメタファーによって描写されたものの総合としてとらえていると解釈していいのですか。それから、先生への謝辞をお入れしてもいいですか。

娘には「お母さんはいつまでも加藤先生を頼りにして」と叱られました。反省はしているのですが…。

9月になって朝晩涼しくなり、クマゼミの声がいつのまにかツクツクボウシにかわっています。気温の日格差が大きいです。寝冷えなどなさらぬように。

9月5日

質問について、レイコフは、意味とは何かというときに「客観的な事実」とイコールに考えないというスタンスをとっているのであって、「客観的な事実」そのものの存在を否定するわけではありません。

謝辞については、心血を注がれた論文の内容を割愛してまで謝辞を残す必要はありませんので、削除して下さってもいいですよ。たいしたことはできませんが、何かお役に立てるなら、どうぞお気軽に言ってきてください。

佐倉さんも夏の疲れが出ませぬように。

11月12日

加藤先生

大学院の方から紀要に載せてもらえると連絡がありました。何から何までご指導いただき、先生のおかげでここまで来ることができました。本当にありがとうございました。これからも先生は私の師です。ご迷惑かもしれませんが、末永くお付き合いください。

12月12日

加藤先生

ノロウイルスによる吐き下しの風邪が流行っていますが、先生、お元気ですか。我が家では娘のもらってきたウイルスにわたしも主人も感染してしまい、2、3日食べられない状態でした。咳のひどいマイコプラズマ肺炎というのものもあるようですよ。

紀要のお礼かたがたお目にかかりたいので、そちらの大学に寄ろうかと思っています。先生のご都合はいかがですか。

12月13日

メールをいただきありがとうございました。おかげさまで今のところノロウイルスにもやられず、仕事に追われています。でも、忙しくしているときのほうが不思議と体調はいいようです。お宅では皆さんがノロウイルスに感染されたとのこと、大変でしたね。

お尋ねの件ですが、師走は何かと雑用なども入り、ゆっくりお会いする時間をお取りするのはとても難しい状況なのです。いつになったら、この慌ただしさから解放されるのやら。

2007年 2月20日

加藤先生

ご無沙汰していますが、お元気ですか。

先日アジア中心に日本語学校を設立し、地元での日本語教育に携わっている先生方の集まりに行ってきました。若い人たちがネパール、ミャンマー、タイなどにある日本語学校や公立学校で2週間から1年間、日本語を教えているようです。わたしも今年の夏には2週間ほどゾウ祭りで有名なタイのスリンというところに行くことになりそうです。ずっと海外で教えてみたいと思っていたのですが、自分が働きかけると、案外早く実現しそうです。次の機会には1から2年の長期でと考えています。

春が近づくと、いろいろと動き出しました。ワクワクします。花粉がすでに猛威を振っているようです。先生は大丈夫ですか。

2月20日

メールをいただきありがとうございました。

夢の実現にかなりリアリティーが増してきましたね。佐倉さんの笑顔が目浮かぶようです。しっかりコンタクトを取って、計画を詰めていかれることですよ。花粉症は今のところ大丈夫です。でも、突然やってくるようですから油断はできません。昔から喉が弱いものですから、マスクなどをして、喉のケアには気を配っていますよ。妙な気候です。お互い気を付けましょう。

6月24日

加藤先生

鬱陶しいですね。じっとしていると、カビが生えてきそうです。更に鬱陶しいことに娘と喧嘩をしてしまいました。25になる娘は大学を出てから定職につかず、今はコンビニでバイトをしています。在学中は教育学部の福祉学科だったこともあって、ボランティアで障害を持つ子どもたちと体育館で遊んだり、スキーに連れて行ってあげたりとかなり活動的に頑張っていたのですが、現場でいろいろ考えさせられることがあったようです。特に保護者であるお母さんたちとの確執で疲れてしまったのかもしれない。養護学校で働こうとはしませんでした。お母さんの中には自分の子どもを見てもらいたいがために施設を立ち上げ、優秀な学生を抱え込む人もいたようですし、母親同士の反目もあったようですから。結局娘はフリーターという危うい立場に逃げたしまい、しかも年下のミュージシャン(アマチュアバンドでドラムを叩いてる)とズルズル付き合っています。時々もっとしっかり将来のこと考えてほしいとイラッとして、言わずもがなのことを言ってしまう。子どもって幾つになっても心配なものですね。

6月24日

メールありがとうございました。

じとじとと雨が續くと心も滅入ってしまいがちですね。親というものは子どものことを心配するようになっているのでしょね。わたしたちも親に同じような思いをさせていたんだなと今更ながら気づくこともあります。

ただ、子どもとはいえ、わたしたちが体験したことのないことや知りえないことを経て生きてきているのです。娘さんも娘さんなりにいろいろ考えていらっしゃると思いますよ。

親が思う以上に大人なんじゃないでしょうか。

私の長男は東京の大学を出て、IT 関係の会社に就職し、結婚もし、一応堅実に生活をしていますが、次男の方は京都の大学に在学中、民族学を学んでから南米に取り付かれ、今も日本と南米を行ったり来たりしています。私はしばらく見守ろうと思っています。

7月20日

加藤先生

夏ですね。梅雨明けを待ちわびていたのに、明けてしまうと、その暑さにもうギブアップって感じです。お元気ですか。

わたしは今月末にスリンに向けて出発します。1 か月ほどの予定です。タイ語も始めたばかりだし、受け入れ先の学校の情報もないし、何をすればいいのか分からないのですが、とりあえず行きます。無事に帰って来られないかもしれないし、発つまえにお茶する時間ありませんか。不安な私を励ましてください。先生の顔を見たら元気になれます。おいしいロールケーキのお店を見つけたんですよ。

7月21日

メールありがとうございました。

いよいよですね。甘いものには目が無いほうなので、喜んでご一緒しますよ。久しぶりに元気な佐倉さんにお目にかかって、パワーを分けてもらいましょう。

9月5日

加藤先生

スリンから無事帰ってきました。なかなかスリリングな旅でしたよ。バンコクからスリンまで夜行列車で行ったんですけど、駅名のアナウンスが聞き取れなくて、どこで降りたらいいのか分からず怖かったです。実は車掌さんが起しに来てくれたんですけど、そんなこと知らないものだから、わたしはどこに行っちゃうのかなって…。スリンではメイクもせず、直射日光の中歩き回ったせいか顔全体に小さい水泡ができて、腫れあがって1週間ひどい状態でした。その間は世話をしてくれる女の先生のお宅にホームステイさせてもらって、先生のお母さんによくしていただきました。

その後中学高校併設の学校の戸建ての社宅で女子高生二人と共同生活をしました。板の間にマットレスを敷いて眠り、冷たい水を浴び、借りた電気鍋でマーケットで買った野菜や肉を料理して3人で食べました。蚊をはじめとして虫が多いのです。パンや砂糖はありがたからないうろに吊り下げていました。夜になると網戸の破れた穴から大きな甲虫が入ってブンブン飛び回り、しょっちゅう鍋に落下する始末。その虫を食べようと巨大ヤモリ何匹も窓や壁を這い回っていました。大きな声で鳴くのですよ。日本の無口で可愛いヤモリの20倍以上あるやつです。ワイルドでしょう？ 女子学生たちは学校に行く前も帰ってからも家の商売の手伝いをし、制服も洗濯し、毎日アイロンをかけたりとよく働きます。休みにはバイクでクメールの小さな遺跡やお寺に連れて行ってくれました。

学校では日本語の授業も定期的に行われているようですが、はっきりした目標もないから日本語の知識はほとんど何も入っていない状況でした。ここでは日本語という異なる

言語や日本文化に触れること自体が勉強なのだと思います。だから、日本語の動詞など一
生懸命教えるより日本語で遊ぶようなアクティビティをもっとたくさん準備しておけばよ
かったと反省しています。

バンコクでは英語も通じましたが、スリンではタイ語しかだめで、言葉が通じない所を
一人でウロウロするのはめっちゃめっちゃ不安なんですけど、それがまた妙に面白いんです。

9月6日

スリンレポート、楽しく読ませていただきました。お疲れ様でした。言葉の通じない異
国で体調をくずし、さぞ心細かったでしょう。でも、ホームステイやタイの女子学生たち
との生活はタイに直接触れるいい機会だったのではないですか。いろいろ反省点もあるで
しょうが、はじめの一步です。これから教えるターゲットや場所を探っていけばいいので
はないですか。バンコクなどの都会では日本語を習得してビジネスシーンで活躍しようと
いう人も多いでしょうから、しっかりとしたカリキュラムを持つ専門学校で日本語教育が
行われていると思いますし、地方では日本の文化の紹介が主たる目的になるでしょう。い
ずれにしても、今回の貴重な体験を次のステップに繋げてください。

11月5日

加藤先生

ずいぶん秋めいてきましたね。青い空一面に翳雲が広がっています。風邪など引いてい
らっしゃいませんか。タイにいたことがはるか昔のような気がします。いろんなことが次
から次へと過去に流れて行ってしまいます。

東京で漫画を描いている息子は担当の編集者とストーリーの展開に関して意見が合わず、
フラストレーションを募らせているようです。漫画家といってもマイナーな月刊誌に一本
連載しているだけなので経済的に苦しいということも精神的な余裕を奪っているのでは
しょう。今の少年漫画はバトル中心で戦闘シーンを要求されるようです。青春物を描きたいと
言っていますが、自分の書きたいものが描けるようになるには時間がかかりそうですね。
新人でも背景などを手伝ってもらおうアシスタントを自腹で雇わないといけないんですよ。
きついでしょ。

11月6日

メールありがとうございました。

風邪もひかず、何とかがんばっています。この先12月に入ると、入試があり、そのあと
クリスマス行事が待っているので気が抜けません。しかし、教会でキャンドルをともし、
皆で声を合わせて歌うと、心が洗われる思いがします。

漫画も含めて芸術で食べていこうとすると、生みの苦しみもさることながら、市場で売
れることを要求されるでしょうから、ストレスも大きいでしょうね。その市場に流されて
しまわないで、少しずつ実績を積んでいくことが自分の表現したいものを描くことに繋がる
ように思います。

2008年 5月10日

加藤先生

新緑が目には鮮やかです。この季節は生き物の出す強いエネルギーを感じますね。4月に入った新入生も少しずつ日本の生活に慣れてきたころです。先生お元気ですか。そろそろお目にかかれないと、先生の顔も声も忘れてしまいそうですよ。天王寺で途中下車して、コーヒーブレイクに付き合ってください。

5月10日

メールありがとうございました。新学期、緑のキャンパスには思い思いのファッションに身を包んだ学生たちがあふれています。久しぶりにおいしいケーキとおいしい話、楽しみましょう。お目にかかるのを楽しみにしています。

7月20日

加藤先生

暑い日が続きますが、夏休みまであとひと頑張りですね。お元気ですか。この間お茶漬けのご飯粒が気管に入って呼吸困難になり怖い思いをしました。その時は事なきを得たのですが、次の日から肺が痛みだし、高熱が出てきたので、かかりつけの病院に行くと、肺炎になっているからと日赤を紹介されました。それは抗生物質でよくなったのですが、CTを撮ると、肺に穴が開いていることがわかりました。もともとあったのか、今回の肺炎でできたのかは分からないけれど、その穴に変な菌が入り込むと面倒なことになるからと手術を勧められました。わたしが手術を嫌がったので、自然に塞がっていくかしばらく様子を見ることになりました。

先生、ご飯はゆっくり噛んでたべましょう。

7月21日

メール拝見しました。大変でしたね。日常のいろんなところに危険は転がっているものですね。高齢者には嚥下性肺炎は命取りになる場合も少なくないと聞きますが、佐倉さんはまだお若いのにね。大事に至らずよかったです。肺の穴は心配です。無理をなさらず、しっかり経過観察して行ってくださいね。

11月26日

加藤先生

先生にとって超多忙な12月がやってきますね。インフルエンザなどにかかっているんじゃないですか。わたしはきょう予防注射を打ってきましたよ。肺の空洞は徐々にしぼみつつあるようです。

娘はどうやら振られたようでどん底状態です。家の中も重苦しい雰囲気漂っています。彼がいつもライブを聴きに來る若い女の子に心変わりしたとかで、娘はののしりの言葉を吐き散らかしていますが、わたしはここらで目を覚まして現実を直視する機会になればと思っています。

わたしは結婚前にかじった油絵をまた始めました。今はまだデッサンをしていますが、少しずつ描きたいものを描いていければと思っています。タイ語の勉強も続けていますが、

年のせいかなかなか上達しません。辛いです。

休暇に入った年末年始はホッとして体調を壊しがちです。お気をつけて楽しい冬休みをお過ごしください。

2009年 5月13日

息子さんの単行本、送っていただきありがとうございます。すごいじゃないですか。新人とはいえ「期待の実力派」と謳われているのですね。絵そのものに心理描写が感じられます。

内輪の話になりますが、1か月ほど前姫路で一人暮らしをしている90歳になる母が尻餅をついて腰の骨の圧迫骨折で入院しました。すわ寝たきりかと本人も周りも心配しましたが、2週間後にはカートを押して廊下を歩けるようになったので、看護婦さんたちも回復の速さにびっくりしていました。そんなわけで、当分姫路と大阪を行ったり来たりする生活がつづきそうです。

5月14日

加藤先生

お母様、90歳でいらっしゃるんですね。回復が速くて良かったですね。きっと代謝が活発でお元気なんでしょうね。ところで、先生と奥様、お疲れになっていませんか。姫路と大阪を行き来する生活が長引くと、どこかに黄色信号が出てくるかもしれません。ご自身の黄色信号、見落とさぬよう気を付けてくださいね。

6月29日

加藤先生

姫路のお母様の具合はいかがですか。先生たちもバテていませんか。わたしの母はまだ78で今まで病気らしい病気はしたことがなく、毎日歩いて買い物など行っています。でも、やはり歩くのがとても遅くなりました。年々縮んで老いていく母を見るのはせつないですね。

わたしは今もタイ語の勉強は続けていますが、ここに来て、タイで日本語を教える意味が分からなくなりつつあります。わたしの中でタイにおける日本語教育のイメージは田舎の学校で好奇心いっぱいの子どもたちに日本語を通して日本を知ってもらおうとするもので、都会の専門学校で行われる学生を日本語能力試験に合格させるための詰め込み教育じゃないのです。しかし、タイの田舎の子どもたちを見てみると、スリンでもそうでしたが、日本はもとよりタイの他の地域に行く機会はほとんどないように思います。そんな子どもたちの学習時間はマイナーな言語である日本語に費やすよりも母国語や数学、外国語なら中国語や英語に当てたほうが彼らにとって実利を産むと思うのです。わたし自身に日本語教育の意味について疑いがあると進めないし、タイ語習得のモチベーションも下がります。タイ文字はハングルのような無味乾燥な幾何学文字じゃなく象形文字というか模様のようにキュートで好きですけど…。

6月29日

メールをいただきありがとうございます。

梅雨時には体の節々に少々痛みを感じることもありますが、まあまあなんとか過ごしています。おかげさまで母は退院して、姫路の実家に戻りました。父との思い出の詰まった家にできるだけ住みたいと、これからも一人暮らしを続ける意志は固いようです。わたしたちは今大阪に帰ってきていますが、ちよくちよく様子を見に行っている状況です。高齢なので気がかりなのですが…。

外国で日本語を教える意味は基本的には学習者のニーズに応えるということになると思いますが、もっと広く考えると、種を撒く作業ではないのでしょうか。種を撒かなければ、芽も出ませんし、花も咲きません。日本語に触れたタイ人の中にタイと日本を繋ぐ働きをするような人が現れるかもしれません。先がはっきり見えなくても、いろんなところに種を撒くことが大切だと思います。

言語の勉強では好きであることが上達への近道のようなので、手間暇のかかる分野ですが、気長にがんばってください。語学習得には2つのコツがあると、新聞に載っていました。その2つのコツって知っていますか。コツ、コツだそうですよ。

12月23日

加藤先生

明日はイヴですね。寒くなりましたが、お元気ですか。

わたしは10月の検診で穴が逆に大きくなって、腫瘍マーカーも上昇してきたので、更に詳しい検査を受けました。その段階では悪性のものは見つからなかったのですが、がんの可能性が極めて濃厚ということで、11月に手術を受けました。結局、肺の空洞に球状の癌ができていたので、右肺の3つに分かれている上の部分を一つ取りました。マクロでは転移はないと思われていたのですが、病理検査で縦隔リンパ節にも微小ながら癌の細胞が見つかり、ステージ3aで、生存率3割程度だと告げられました。それを聞いたとき、案外冷静に、やっぱりか、仕方ないなって思いました。主人のほうがショックを受けてたようです。わたしって他人に対してだけじゃなく自分にも冷淡な人間なのかもしれません。頑張れば望みが叶う可能性のある場合は頑張るけど、自分の力ではどうしようもないことについては悩まず、さっさと諦めるようにして生きてきましたから。手術後3週間ほどしてから抗癌剤の化学治療をはじめ、1クール終わって退院し、少しずつ家事などしています。

具体的に死が視界に入ってきて、これからどう生きるべきかとか、何かしたいかとか考えましたが、特に何も思い浮かびません。やるべきことやりたいことはほとんどやってきましたから。やれるだけの治療を受けて、なるべく早く仕事に戻り、普段通りの生活を取り戻したいと思っています。

病棟では大勢の人が癌の手術や化学治療を受けています。みんな、すごくあっけらかんとして明るくてたくましいです。今まで知らなかった世界をたくさん見えています。

先生、しっかり検診なさってください。奥様も子宮や卵巣の検査を怠らないでください。

12月23日

メールをいただきありがとうございます。

明日は夕方教会で燭火礼拝があり、皆で歌う予定です。その後どうしておられるかと案じ

ておりました。癌が見つかったと伺い、びっくりしています。化学療法も始められたとのこと、しんどい思いをなさっていることでしょうか。しかし、事実を冷静に受け止め、治療を終え、早く職場に戻ることを望まれていると伺い、安心しました。回復するには治療はもちろんですが、本人の治りたいと言う強い気持ちが治癒力や免疫力を高めるのだそうです。佐倉さんも持ち前の頑張りを発揮して、強い意志を持って治療に励んでください。佐倉さんのことは我が家でも応援し、毎日お祈りしています。

2010年 3月10日

加藤先生

3月に入ったのに、真冬並みの寒さが続いています。ご無沙汰していますが、お元気ですか。新学期に向けてお忙しくされているのでしょうか。

わたしは予定されていた4クールに及ぶ抗癌剤投与をすべて終えました。副作用がきつくと、脱水症状を起こし、途中でやめようと思ったのですが、家族が予定通りやってもらうことを強く望んだので頑張りました。髪の毛はかなりボリュームダウンしましたが、帽子を必要とするほどじゃありません。

先日首かもしれないと恐る恐る教務に連絡を取ったら、無理せずできる範囲で働いてくださいと言ってくれたので喜んでます。体力、筋力とも衰えてしまい、今は少し歩いても、ゼエゼエしてしまいますが、新学期に備えて整えていくつもりです。

癌になって、家族のありがたさが実感できたし、同僚の温かいメールや手紙に励まされ、相手を思いやる心とそれを表すことの大切さも分かりました。癌や様々な難病に苦しむ人たちのへこたれない姿に人間の強さを見ました。健康だと知りえない現実を垣間見ることができたように思います。どう還元していくかはこれからの生き方しだいでしょうね。

健康はみんなの願いです。食事や運動など気を付けていても、免疫力が弱くなると、どこからか病魔が入り込んで来ます。先生も疲れやストレスなどお溜めになりませんように。もうすぐ春ですね。

3月10日

こちらこそご無沙汰しています。

苦しい治療をよく最後まで頑張られましたね。同僚の先生方から抗癌剤治療がいかに苦しいか何度か聞いていましたので、佐倉さんの辛さが軽減されますようにと祈っておりました。職場にも復帰されるそうで、よかったですね。でも、張り切り過ぎて、あまり無理をしないで下さいよ。

一つ、詩を紹介します。この詩はアメリカの南北戦争に従軍した南軍の無名兵士が書いたとされるものです。マンハッタンのニューヨーク大学付属病院のリハビリテーション医学研究所の受付の壁に掲げられているそうです。わたしもいろいろ考えさせられることの多い詩です。

「病者の祈り」

大事をなそうとして、力を与えて欲しいと神に求めたのに
慎み深く従順であるようにと弱さを授かった

より偉大なことができるように、健康を求めたのに
より良きことができるようにと病弱を与えられた
幸せになろうとして、富を求めたのに
賢明であるようにと貧困を授かった
世の人の賞賛を得ようとして、権力を求めたのに
神の前にひざまづくようにと弱さを授かった
人生を享楽しようと、あらゆるものを求めたのに
あらゆることを喜べるようにと生命を授かった
求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き遂げられた
神の意に沿わぬ者であるにもかかわらず、心の中の言い表せない祈りはすべて叶えられた
私はあらゆる人の中でもっとも豊かに祝福されたのだ

作者不明

A GREED FOR THOSE WHO HAVE SUFFER

I asked God for strength, that I might achieve
I was made weak, that I might learn humbly to obey
I asked for health, that I might do greater things
I was given infirmity, that I might do better things
I asked for riches, that I might be happy
I was given poverty, that I might be wise
I asked for power, that I might have the praise of men
I was given weakness, that I might feel the need of God
I asked for all the things, that I might enjoy life
I was given life, that I might enjoy all the things
I got nothing that I asked for, but everything I had hoped for
Almost despite myself, my unspoken prayers were answered
I am among all men, most richly blessed!

Author unknown

まだしばらくはご不自由なこともおありでしょうが、焦らず無理をなさらずお過ごしください。

3月10日

加藤先生

素敵な詩をありがとうございました。何回も読み返しました。涙があふれてきました。わたしも神の意に沿わぬ者であるにもかかわらず、祝福された者の一人かもしれません。病めるものとなり、健康であることからくる傲慢さを諫められ、視野を広げられた感がします。

先生は不思議です。いつもわたしが真に必要としているものを提示してくださいます。まるでわたしの心の中が見えていらっしやるようです。まあ私はどちらかと言えば単純なほうではありますが…。わたしの心の甘えやもろもろの思惑もしっかり受け止めて、的確なアドバイス等を与えてくださいます。それは、やはり先生がクリスチャンだからでしょ

うか。この詩を心の糧に大切にしていきたいと思います。

4月10日

今日は思いがけず、うれしい便りと息子さんの作品をお送りいただきありがとうございました。何よりもまず復帰おめでとうございます。苦しい治療を頑張ったかいがありましたね。

息子さんの作品を見ると、頑張っておられる様子が伝わってきます。娘さんのほうも社会福祉士の資格を取る勉強を始められたとか。親としては一安心というところですね。佐倉さんご自身も早速タイ語も油絵も再開されるそうで、エンジンかかっていますね。

大学では6日からすでに授業が始まりました。佐倉さん同様に授業をやっていることがどんなに幸せなことか私も噛みしめています。引き続き健康に十分注意しながら、お互いがんばりましょう。

5月17日

加藤先生

5月中旬だというのに肌寒い日があるかと思えば、真夏日があったりで、わたしの周りでも喉の痛みや発熱といった風邪の症状に悩まされている人が多いのですが、先生は大丈夫ですか。わたしは元気にしています。あまり元気なので、心配してくれたみんなが拍子抜けしているようですよ。とはいうものの、まだ息がすぐ上がってしまうので、家にいる日は一時間くらいゆっくり歩いています。今日も散歩していて、空がとてもきれいなので、このまま青い空に溶けてしまえたらいいのになって思っていました。

主人は来年3月で定年になります。ほとんどの人は定年後数年会社に残るようですが、主人にはそんな気はないようです。仕事もないのに残りたくはないのでしょう。定年後どうするのか具体的には考えていないようですが、わたしはもう十分働いたからゆっくりしてもいいんじゃないかと思っています。

先生は定年はまだ先のことだと思いますが、その後の生き方考えていらっしゃいますか。

5月21日

メールありがとうございました。

毎年この時期には喉を痛めるので、用心のためマスクをかけています。そのおかげか風邪もひかず過ごせています。

歩くことはいいですね。いろんな効用がありますね。体の代謝もよくなるし、気分転換にもなります。身近な風景の中に小さな発見があったりします。先日キャンバスを歩いていて、ふと見上げると、澄み切った青空にチャペルの塔がそびえ、白い雲がぼっかり浮かび、そのコントラストが素晴らしかったです。

定年後の生き方については考えないわけでもないのですが、あまり具体的には浮かんできません。家内は早めに退職して、あちこち旅行しようなどと言っていますが、どうなることやら。今はまだ仕事のことで手一杯という状況ですね。

11月30日

加藤先生

今年もあと1か月残すばかりになりました。お元気ですか。わたしは元気です。術後の1年検診で脳や骨も含め、体全体を調べましたが、異常は見つかりませんでした。痰と胸のつかえはありますが、去年のヨレヨレ状態がうそのようです。仕事の方も順調にこなせていますし、タイ語検定、やっと3級合格しました。絵は20号をかき上げました。県展には通りませんでした。主人はいい絵だと玄関に飾ってくれました。今度は100号にチャレンジするつもりです。病気を水戸黄門の印籠のように見せびらかしながら、やりたい放題しています。

もうすぐクリスマス。またご夫婦で演奏なさるのでしょうね。目に見えぬ触れられぬ「神」を信じることのできないわたしですが、移り行く自然の美しさを味わえる幸せをつくづくありがたいと思います。与えられた猶予期間、楽しく過ごしたいものです。

2011年 3月14日

加藤先生

大きな地震とそれに伴う津波で大勢の人がなくなったり、行方不明になっています。先生の身内の方々は無事ですか。わたしのほうは東京にいる息子となかなか連絡がつかず、心配していましたが、無事を確認できて、ホッとしました。災害時には携帯など無力になってしまうものなのですね。

3月14日

メールありがとうございました。

息子さん、無事でよかったですね。想像を絶する地震でしたから、お宅でも心配されたでしょう。我が家ではペルーにいる次男はさておき、東京に住む長男一家は無事でした。会社泊を余儀なくされたり、停電もあったようですが、それほどのダメージはなかったようです。関東の人同士は携帯電話が通じにくいときもあったようで、固定電話やメールのほうが固いようですね。姫路の母は地震の影響はなかったのですが、2月にまた転んで骨折してしまい、入院しました。退院はしたのですが、今回は脚力の回復が遅く、歩けない状態なので、介護が必要とのことで、家内が姫路につめ、私が姫路と大阪を行ったり来たりしています。これからのことを考えて、大阪の我が家での同居、大阪の施設への入居、実家近くの施設への入居など検討した結果、本人が地元で暮らすことを望みましたので、様子を見て、姫路の方の施設にお世話になることにしました。こうしたことを考える中で自分たちの老後のこともいろいろ考えさせられています。

3月15日

加藤先生

わたしにも一人暮らしをしている母がいるので、お母様のことは他人事とは思えません。お年寄りにとって慣れ親しんだ土地や人と離れるのは心細いものようですね。見知らぬ環境が認知症の引き金になることもあるようです。子どもとしたら一緒に暮らしてくれたほうが安心なんですけれども、自宅で介護が必要となると、家人にかかる精神的肉体的負担は相当なものだと考えられます。何年かは自宅で介護をするんだけど、次第に双方とも

疲弊してしまい、結局、施設に預けることになるケースが大半のようです。同僚にも長い間親の介護をされた方が何人かいて、その方たちがよく言ってるのは、介護にはなるべく手を抜いて、いろいろな行政のサービスをうまく利用し、我慢しないことが肝心だということ。

今先生方は姫路と大阪の二重生活をなさっているのですが、無理なさらず、頑張らず、甘えられる人には甘え、お金で解決できることはお金で解決し、ポチポチやってください。お二人が倒れてしまっは大変ですから。

6月23日

加藤先生

蒸し暑い日が続いていますね。熱中症も少しずつ話題に上り始めました。お母様のご様子、いかがですか。気丈で矍鑠とされた方のようなことから、新しい環境への順応もお早いのではないですか。

わたしはペット検査で肺と胃のリンパ節に癌の再発が認められたので、また化学治療始めました。もう少しもつかなと思ったのですが、案外早く再発して少しがっかりです。これからはマーカーの値など見ながら、抗癌剤の点滴を繰り返す治療が続くのかなと思います。周りに迷惑をかけない程度に仕事もなるべく続けて、今の生活を維持したいのですが…。

タイで日本語を教えるという夢の実現は難しくなりました。病気というより自分の中に生じた迷いが夢の実現を阻んだような気がしています。振り返ると、何か目標を掲げ、その意義を信じ、それに向かってがむしゃらに進んでいるとき、願いは叶えられてきた感があります。

フラフラしていた娘は市役所の福祉の専門枠に正規採用され、4月から働いています。生活保護の受給に関するタフな職場のようです。残業や不意の呼び出しもあって、わたしがイメージしていた公務員の生活とはかけ離れています。

6月23日

メールをありがとうございました。

おかげさまで母は大分施設に慣れたようで、毎日聖書を読み、リハビリに励んでいるようですので、ホッとしています。

厳しい検査結果を冷静に受け止めて、治療に向かおうとされているご様子に安心しました。長期の治療のようですから、気力こそが治療に欠かせない良薬ですよ。家内共々陰ながら声援を送るとともに良い結果が得られることを心よりお祈りさせていただきます。

娘さんは行政の方から福祉に携わろうと発想の転換をされたのですね。専門枠での正規採用はかなり狭き門だったと思います。よく頑張られましたね。よかった。

11月14日

加藤先生

ご無沙汰していますが、お元気ですか。お母様も健やかでいらっしゃいますか。わたしのほうは種類の違う抗癌剤を試したけれど、効果がないので、リンパの腫れが悪性

リンパ腫かもしれないから、確かめるために、また手術をしてサンプルを取るようになりました。開胸手術ではないのですが、また体に穴を開けて、チューブを突っ込むのだと思うと憂鬱です。主治医を信頼していないわけではないのですが、たくさん担当している患者の一人でしかないわたしの病状を、5分程度の診察で患者に触れることもしないで、いったいどれだけ把握してくれているのか、どれだけ患者サイドに立って考えてくれているのか疑問に思うこともあります。

11月14日

メール拝読しました。

大病院では散々待たされた挙句、診察はあっという間で、しかも、患者の顔さえ見ずにパソコンの画面だけを見て、診断を下す医師がいると聞いたことがあります。1日に何10人もの患者を診なければならぬとなると、患者一人にかけられる時間は自ずと短くなるを得ないのでしょうが、患者からみると、納得のいかないことも多いのかもしれないね。治療等に対する疑問は診察の度に医師に明確に伝えていくしかないでしょうね。5分しかない診察時間を無駄にしないためにも、気が付いたときにメモなど取っておかれてはどうでしょう。

母の顔を見に月に一度は姫路に帰っているのですが、母は施設でなるべく歩くように心がけ、お仲間としゃべったり、アクティビティーに参加したりと穏やかに生活しているようです。

2012年 2月11日

お便りとチョコを送ってくださりありがとうございました。

手術の結果、癌の再発ではなかったとのこと、よかったですね。ただ、サルコイドーシスという難病だというお話ですから、ご心配なことでしょう。しかし、どんな場合も自己治療力が最も大切だということですから、なるべく体力をつけ、ストレスなどを少しでも減らす環境にいられるよう気を付けてくださいね。

もうすぐ春がやってきます。それを楽しみにしつつ、どん底の寒さを乗り越えましょう。

8月11日

加藤先生

真夏日が続いていますが、お元気ですか。夏休みということもあってオリンピックに釘付けになっています。日本人は体格が劣っているハンデのなかで、よくがんばっていますね。卓球の愛ちゃんの活躍ぶりにはみんな喜んだのではないのでしょうか。日本人みんなの娘のような存在ですよ。お盆で帰省されているのかな。

わたしはまた癌マーカーが上がってきたので、化学治療しています。手術で取ったサンプルは癌じゃなかったけど、他にあった小さな塊は癌だったってことかな。結果論かもしれないけど、手術は意味なかったのかもしれない。肺癌は脳にも飛びやすく、転移が見つかったので、ガンマーナイフと呼ばれる放射線治療も受けました。頭を固定するために額に開けた小さな穴から血がタラタラ流れて服に落ちてしまうし、頭は包帯でグルグル巻きにされるし。なんか乱暴な治療だったなって思います。

わたしは今週一日だけ学校に行っているのですが、後期はどうしようかと迷っています。体力的にはいけそうですが、わたし自身の教えようと言うモチベーションが下がっています。今まで中国人や韓国人をはじめとする外国からの留学生たちに日本語教授を通じて、日本の真実、日本人も理解してもらいたいと思ってやってきましたが、最近の中国や韓国政府の日本に対する行状には目に余るものがあります。たとえ留学生たちが日本に来て、自国を客観視できるようになっても、帰国すれば、よほどの信念を持たない限り、自国で生きていくために体制にあがらうことはできません。政府やその国の教育が変わらなければ、その国民の意識も生き方も変わりようがないんじゃないかと絶望的な気持ちになります。友達になれないような隣国から日本に悪感情を持ってやってくる学生に何を教えたらいいのでしょうか。苦学生も姿を消し、アニメやゲームに現を抜かす富裕層の子弟が来日するケースが増え、学生気質も変わりつつあるのも教える気力の萎える一因です。

8月14日

メールありがとうございました。

オリンピックでは何度も感動と勇気と元気をもらいましたね。我が家でもハラハラドキドキしながら応援していました。しばらく姫路に帰省していました。母も外泊許可をもらって実家で一緒に過ごすことができ、涼しい早朝や夕方、散歩がてら、いろいろ話もできました。

メールを拝読したところ、マーカーが上がって化学治療されているとのこと、さぞ落胆なされたことでしょう。脳にも転移があったそうですが、場所によってはガンマーナイフによる治療が受けられないこともあるようですから、それが受けられたということはラッキーですし、よい結果が望めるので、楽しみにしましょう。

日本語学校での後期について「体力的にはいけそうだ」と伺い、うれしくなりました。おっしゃるとおり、最近の中国や韓国政府の日本に対する姿勢をみると、看過できないことが多すぎますよね。これに対して、一方では日本国政府がきちんと対応すべきだとは思いますが、他方で、すべて国任せにしたのではうまく行くとも思えません。中国や韓国に反日教育をやめるよう求めるのは難しそうです。そんな中で一縷の望みは、政府やその国の教育が変わらなくても、国民が国を動かしている事例が世界のあちこちに見られることです。中国や韓国からの留学生を見ると、留学によって、ちゃんと日本を知り、母国で受けた教育とのズレを理解し、両国の懸け橋になりたいという強い希望を持って帰国する人がたくさんいます。佐倉先生の授業を受けた人の中にもきっとそうした人がたくさんおられると思います。時間はかかるでしょうが、そうした人の帰国後の働きに希望をつなぎながら、辛抱強く教壇に立つことがやがては意味を持つてくると思います。

8月20日

加藤先生

先生のアドバイスを伺い、仕事は今しばらく続けようと思います。何事においても冷静に物事を見る目を持たなければいけませんね。ただ、「教える」ことを仕事にしている場合、教える側にやる気がなくなったら、やめるべきだと思っています。流すような授業をしたのでは学生に対して申し訳ないですから。

先生に一度お聞きしたいと思っていたのですが、先生が専門的に言語、特に英語を研究しようと思われたのはどうしてですか。また、大学で何を教えようとなさっているのですか。「教える」という仕事をどうとらえていけばいいのか、ヒントをください。

8月23日

メールをありがとうございました。

佐倉さんのヒントになるかどうかわかりませんが、私の通ってきた道を遡ってみますと、実は中学生の頃までは医学の道を目指していたのです。自分自身、体が弱かったこともありますが、ヒトの体のメカニズムに興味がありました。それと同時に英語への関心は小学校高学年から芽生えていました。ラジオから聞こえてくる英会話講座に耳を押し当てるようにして、日本語にない英語特有の音をとらえようとしていました。中学で英語を習うようになると、日本語と英語の構文の違いにも目が向き、さらに、英米人はどんなことを考えているのか、ひいては、ヒトは言葉にどのように影響を及ぼすのだろうかと思ったりするようになりました。広い意味では、ヒトを研究することになるのですが、医学のように生物学的にヒトの体を学ぶのではなく、言語の構造や表現方法を通して、ヒトの考え方を研究する分野に進もうと思ったのです。

大学では人を育てたいと思っています。学問の面だけでなく、人間的に少しでも優れた人を輩出することを夢見ているということです。大学で培った知識、能力、人格を社会に還元できるようにサポートしたいのです。キリスト教主義の大学でなければならない教育が存在するし、それは卒業生の強みにもなると信じています。

8月25日

加藤先生

質問に答えてくださってありがとうございます。

地域によって、時間や環境などいろんなものの切り取り方が違うから、言葉も異なってくると聞いたことがあります。それに、経済力などを背景にした強い言語、弱い言語の存在、また、言語によって「なる」動詞を好むのか「する」動詞を好むのか違って来るようですね。言葉は人や文化と切っても切れない関係があると教わったことがあります。先生はその辺のところを研究していらっしゃるわけですね。わたしも言語にかかわっていますが、専門学校ではターゲットの言語の習得と運用に焦点が当てられているため、日本語自体を掘り下げるようなことはしませんし、人格形成に携われるとは思えません。

先生のティーチングの根っこには揺るぎのない信仰心があります。考えや行動の規範となるのは聖書の教えなのですね。残念ながら、わたしには信仰心はありません。いろんな宗教に触れる機会があったのですが…、どれも信じることはできませんでした。猜疑心が強いからでしょうか、純粹さを持っていないからでしょうか。何かを信じることができたなら、迷わず穏やかに過ごせる気がするのですが。

まだまだ酷暑が続きます。しっかり水分取って、夏を乗り切ってください。

12月22日

お便りとペアのネックウォーマー、ありがとうございました。寒い毎日があったかく過

ごせそうです。佐倉さんのほうはマーカーの値が落ち着いているようで、新年に向けていろいろ準備に忙しくされているとのこと、うれしく読ませていただきました。

わたしはクリスマスが近づくと、普段にも増してクリスチャンであることを自覚させられます。ある宗教への信仰はそれを知ることから始まりますが、結局、信じるか信じないかという心の選択になります。自分自身の心と向き合うことになるのです。親兄弟が何か宗教を信じている場合は自然に信仰心がはぐくまれることが多いようですが、そうでない場合は何かきっかけが必要なケースが多々あります。佐倉さんは自然体で行かれたらいいのではないですか。よいお年をお迎えください。

2013年6月20日

加藤先生

本格的な梅雨ですね。なかなか頑張っ降っています。ご家族の皆さん、お元気ですか。わたしはポチポチです。今年の3月いっぱい仕事を辞めました。マーカーが上昇する中で、これからの治療法やそれに伴う体調の悪化など予想できないということもありましたが、どうしても教える気力がでてこないということが一番の理由です。授業の準備や4時半起きから解放され、ホッとしています。一方で、働くことによって社会と繋がっていた線が絶たれてしまったので、宙ぶらりんの自分への頼りなさを実感しています。

主治医から治療法を迷っているというか、手づまりな感じ伝わってきましたので、セカンドオピニオンを聴きに別の病院に行ってきました。基本的には日赤の先生の治療方針を支持するもので、新しい分子標的剤の使用を勧められました。いくら新しい分子標的剤が出て、私の癌の型と合わないものは使えないので選択肢はそれほどありません。今回服用したものは顔面のニキビなどの副作用はきっちりありましたが、マーカーの値から見ると、全然効果はありませんでした。そもそもマーカーって何だろう。わたしの場合はCEAというマーカーを使っています。正常値は3前後かな。5くらいになって手術したのだけど、今や70を超えています。上限はないそうで、500の人が10の人より元気なこともあるらしいのです。マーカーの値を下げるべく抗癌剤や分子標的剤を打ってるけど効果が認められなければ、別の抗癌剤を試すって感じです。抗癌剤治療についても、百害あって一利なしと言い切る放射線科の医師の本も出回っています。彼によると、癌には本当の癌と癌もどきがあって、癌もどきは放っておいたら治るし、本当の癌は何をしても無駄でむしろ放置したほうが生活の質はよく、楽に死ぬる、つまり、癌は放っておいたほうがいい、抗癌剤は苦しみを長引かせるだけだということです。そんな本を読むと、苦しい思いをして抗癌剤治療を続けることに疑問を感じるのです。ここで一切の治療をやめてしまうのにも勇気が要ります。主人は諦めずに何でもやれって言うけれど…。

鬱陶しい日は気持ちも滅入りがちです。

6月24日

メールありがとうございました。

空梅雨かと思いきや、どっと降るし、今年の夏も変な天気になりそうですね。仕事を辞められたのは残念ですが、それでストレスが少しでも減るのなら、賢明な決断といえるでしょう。佐倉さんはいろいろしたいことがおありだと思いますから、ご自分の時間、しっか

り楽しんでください。

マーカークのことは素人の私にはわかりませんが、癌という病気は専門医にすらなかなか掴みきれない本当に厄介な病気ですね。化学治療もその人に合うかどうかはやってみなければ分からないというのが辛いところですね。しかし、やってみるしかないとはいえ、まだまだ試してみるものがいろいろあるわけですから、副作用の克服は大変でしょうが、効果の出ない可能性を心配することは忘れて、効く可能性だけを信じて前向きに頑張っしてほしいと思います。ご主人が諦めずに何でもやれとおっしゃる心情が痛いほど分かります。夫婦だからこそ感じる強い思いがそこにあるわけですから。毎日お祈りし応援しています。

12月3日

加藤先生

いよいよ師走になりました。また1年生き延びました。先生はお忙しい年末をお過ごしのことでしょう。

わたしは9月から治療をお休みしていたら、マーカークが100を超えてしまったので、来年1月から抗癌剤を打つつもりです。お正月は髪の毛が欲しいので、休み明けにしてもらいました。

最近クレパス画を始めました。ルドンが好きで、彼の緑青を用いたクレパス画がとても美しいと思います。クレパスで描いて、その上からペトロールで叩いて溶かしていくのです。油絵よりも柔らかな感じに仕上がります。

治療に関しては、いろいろ迷いはありますが、現代医学と医療関係者の良心を信じ、治療にあたっていこうと思っています。また家族そろって正月を迎えられることを喜びたいと思います。

先生も風邪などお召しにならないで、ご家族と楽しいひと時をお過ごしください。

2014年 2月11日

先日来大変寒い日が続いていますね。こちらでも久しぶりにある程度雪が積もり、大学の中央芝生にも雪だるまが作ってありました。さて、本日は結構なものをお送り言叩いてき恐縮です。治療で大変な毎日をお過ごしの中、気にかけていただき、そのお心遣いに寒さを一時忘れることができるように感じられ、感謝です。娘さんの職場の人とのご結婚も決まったそうで、春めいたニュースに心が明るくなりました。よかったですね。

近頃新しい医学の進歩のニュースをたびたび耳にしますが、早く応用段階が来ればよいのにという気持ちがますます高まってきます。

お互い最新の注意を払いながら春を待ちましょう。

6月28日

先日は息子さんの作品とお便りをいただきありがとうございました。毎日お祈りさせていただいているのですが、どうしておられるだろうかと思っていたところです。日常生活はボチボチ遅れてるといっても、鎮痛剤が手放せないとのことですから、辛いときもおありでしょう。お察しします。楽な過ごしやすい時間帯が少しでも長く続くように祈っています。

息子さんの連載漫画が編集長との意思疎通によって紙面からウェブに移らざるを得ない状況になったとか。小さな出版社では編集長の一言で大切なことが決められていくのかもかもしれませんね。最近はメディアも多様化しつつあります。スマホが津々浦々まで普及し、世界のニュースはもとより、音楽を聴いたり、本を読んだりすることも簡単にできるようになりました。ウェブ配信の漫画や小説も多いのではないですか。どのような媒体に載ることになっても、自分の作品に愛情と誇りを持って取り組んでほしいですね。

9月30日

加藤先生

大学ではもう後期が始まっているのでしょうか。お忙しくされているのでしょうかね。わたしはまだ生きてますよ。7月、8月は本当にしんどかったです。右足だけゾウの足のよう膨張し、下腹部もポッテリプヨプヨ浮腫み、5分と立ってられない状態でした。目から涙かなんだか分からない汁がしょっちゅう出て、鎮痛剤のせいか体に力が入らなくてフラフラしていました。今は浮腫はあるものの元気です。マーカーが200近くまで上がると、いろいろ症状が出てくるのかもしれませんが、主治医も放射線科の医師も骨盤転移は認められるけれど、浮腫の原因は分からないというばかりで、患者としては頼りない感を持ってしまいます。肺腺癌のいろんな症例を見てきているはずなのに…と思うのです。今打ってる抗癌剤は少し効いてるようで、大分体がしっかりしてきました。癌細胞は耐性があるから、効き目はいつまで続くのか分かりませんが…。

最近死に時について考えることが多くなりました。それについて書かれた本も読みました。共感する部分がたくさんありました。体は死にたがっているのに、終末医療で無理やり生かそうとすると、患者自身の苦しみが増すというもので、無駄な医療に莫大な費用がかかるうえに、耐えがたい苦痛の中で死にきれない状態が続くようです。昔のように終末を自宅で過ごせば、食べられなくなってくると、体が枯れてきて、体力もなくなり、自然な形で死を迎えられるそうです。一人一人の持つ寿命に逆らわないのが賢明な生き方なのでしょう。わたしの癌治療にも多額の費用がかかっています。分子標的剤一本で何十万円もするらしいのです。実際はそれほどの負担をせずに、治療を続けられるのは主人の健康保険と難病医療のおかげなのですが、結局、他の人の負担になっているのです。わたしの治療はどれだけ続くのか分かりませんし、わたしがこれから社会に貢献できる可能性はほとんど期待できないにも関わらずです。そう考えると、さっさと死んだほうがいいのですが、積極的治療をやめる決心がなかなかつきません。死ぬことは怖くないのですが、死に至る痛みや苦しみを想像すると、ヘタレのわたしは恐怖に引きつります。

先生はいつまでも元気でいてください。おいしいものを食べて、よく眠ってください。わたしはわたしのDNAを持つ癌細胞ともう少し共存していきます。

10月2日

メールありがとうございました。7、8月にはとても苦しい時期があったのですね。ご本人でなければその辛さは分からない時期だったことでしょう。今は元気になっておられると伺い、とてもうれしく拝読しました。わたしもクリスチャンの一人ですが、苦しいときにどんなふうにかえるかと言いますと、神様は私たちにいいことばかりをお与えになる

のではなく、試練もお与えになる。しかし、決して乗り越えられないような試練はお与えにならないと信じ、また、すべては神様の御旨のままなのであるから、一切を神様にゆだねて安心して生かされています。佐倉さんも辛さの中でいろいろ考え込むときもおありでしょうが、佐倉さんの持ち前の明るさと積極的に前を向いて歩む気持ちが大きなパワーとなって、必ずや快復力にもつながると思います。

10月3日

加藤先生

思いやりのこもった励ましありがとうございます。わたしは癌で死ぬのも死に方の1つで、それほど悪い死に方でもないと思っています。わたしの癌細胞に対しても悪感情は持っていません。肺でできた穴を塞ぐために一生懸命増えた。その増殖をコントロールできなくなってしまったんだと解釈しているからです。細胞たちは「やっちゃった」と後悔してるかもしれません。わたしは神を信じることができませんが、先生のおっしゃる「神は乗り越えられない試練をお与えにならない」を信じて治療していきます。

2015年1月13日

加藤先生

明けましておめでとうございます。お正月、皆さん集合されて、にぎやかに過ごしたのでしょうか。うちにも子どもたちが帰って来てくれて、久しぶりに母も泊まりに来て人口密度が高くなりました。わたしはというと年末年始、抗癌剤は休んでいたのですが、吐き気がひどく水も摂れない状態でバテていました。吐いてばかりいると、元気もやる気もありませんね。夜横になると、頭もお腹も痛いので、鎮痛剤を飲み始めたところ、吐き気も納まり、少しずつ食べられるようになってきました。頭も胃も調べてもらったけど異常はなかったので、吐き気の原因もよくわかりません。

まあ元気が戻ってきたところで、先生に質問があります。宗教的な質問です。私の周りにはクリスチャンをはじめ、エホバの証人や創価学会、真光など若い頃から信仰している人がたくさんいます。わたしにはどうしてそれを信じられるのか不思議です。先生はきっといろいろ深く学ばれ、信仰を確信されたと思うのですが、どうしてキリスト教の神を信じ、その御旨に沿うことがご自分の生きる道だと思われるに至ったのでしょうか。わたしは、この世、つまり、宇宙の在り様の整然とした美しさや生き物たちの多種多様な素晴らしさには、創造主というか意思を持つエネルギーを感じますし、そこには知性と愛を見ることができます。ただ創造主に似せて創られた人間に対しては温かい愛を感じることはできないのです。人間の従順さを試して、その結果が意に沿わぬものだったからといって、こんなに試練を与え続けるとは、神はなんと容赦のない執念深い気質を持っているのでしょうか。神はオールマイティーにもかかわらず、一番身近な使徒さえもコントロールできず、墮天使、つまり、サタンを生み出す羽目になり、しかも、その絶大な力を持つサタンを人間の世界に放ち、人間がどれだけやれるか高みの見物。母親から産み捨てられる赤ちゃん、守ってくれるはずの父の親に虐待されて命を落とす子どもたち。浚われて麻薬漬けにされ、実母を強姦することを強いられ、銃を握らされ、兵士として戦場に送られる子どもたち。あげればきりのない悲惨な現状。全部人間の原罪からきているのですか。神

は見ていただけですか。わたしはどこに神の温かい愛を感じればいいのでしょうか。わたしはずっと心のよりどころを探しているのです。聖書もかじった程度ですので、その解釈も中途半端だと思いますけれど、このもやもや感に的確な答えを与えていただけないでしょうか。妙なお願いです。先生にしか頼めません。

課題論文や卒論で大変お忙しい時期ですね。返事は時間ができたとき、いつでも結構です。

1月14日

明けましておめでとうございます。帰国していた次男も姫路に集まり、ほんの2、3日ですが、母とも和やかな時を過ごすことができました。

佐倉さんは体調のすぐれないお正月だったようで大変でしたね。でも、そんなときによくメールをくださいました。どうして私が神様を信じることができるようになったのかお尋ねですが、キリスト教は深く学べば信じるようになれるものでもありません。自分の力では及ばない物事存在を知り、目に見えぬ神をそれとなく感じ、実は神がすべてを創造され、しかも、神に背いた人間の罪をあがなうために、たった一人の子であるイエス様を世に送って十字架につけてくださったことを知り、そうした神にすべてをゆだねて受け入れるかどうかの問題です。理性で考えてというのでないところが、ある意味大変難しいところですよ。

信じて、神を受け入れた結果、ほんの小さな事柄の中にも神のご意志が働いていると感じさせられることはよくあります。困った時にも心から祈る。みんなにも祈っていただく、その結果、神が意外なよき解決の道を用意してくださっていたことが分かったりもする。そんな経験をクリスチャンならだれもが持っていると思います。

若い頃は確信が揺らぐこともありましたが、いろんな体験を通して次第に神の存在を確信していきました。神はすべてのことに人知を超えたご計画をなさっておられるのだと実感するのです。だからどんなに辛いことがあっても、神は自分にそれを与えてくださっているのだと受け止めることができるのです。大変な厳しさを経験するほど神を受け入れた喜びも大きいようです。神を信じ、すべてをゆだねるねそこに心の平安も生まれ、大きな喜びが生まれます。

神はわれわれに神に背く自由も与えられていると考えます。神に背く、神を信じないこと、それがキリスト教で言う「罪」なのですが、罪を犯す自由すらわれわれに与えられているのです。その自由の中で背くか信じるか、そこがわれわれに任されていることです。

キリスト教にご興味がおありであれば、お近くの正統的なプロテスタントのキリスト教会へ行ってみたい、ご連絡されたりすることをお勧めします。ご希望なら教会をご紹介します。なにかあればお気軽にご連絡ください。

1月15日

加藤先生

丁寧なお返事ありがとうございました。

わたしは一見迷える子羊に見えるらしく、若いときから宗教に携わる見知らぬ人から声をかけられることがたびたびありました。駅で電車を待っているとき、隣に立った人に車中

1時間ほど、「アガペ」と「エロス」についての話を聞かされ、後日葉書までいただいたことがありましたし、駅を出た途端、アンケートに答えたら、そのまま統一教会の合宿所に連れていかれて、統一原理なる講義を受け、分厚い本を借りて帰ったこともありました。また、社宅に住んでいた頃、雨の日にチャイムが鳴ったので、覗くと傘を持った小さな女の子を連れたエホバの証人が寒そうに立っていたので、招き入れたのがきっかけで、1年ほど聖書を勉強したこともありました。どの人も穏やかでまじめで好感を持ちましたし、彼らという居心地がよかったですし、理論はそれぞれおもしろかったのですが、信仰まで至ることはありませんでした。いつもまず頭で理解しようとして、心で感じる事がなかったのです。しかし、不思議なのはもともと同じ書物である聖書を教典としているのに、いろいろな解釈の違いで様々な宗派に分かれているということです。カトリック、プロテスタント、ものみの塔等。聖書は比喻やたとえ話が多いということもあって、神の言葉を人間が理解しようとするとき、ギャップが生じるのでしょうか。

きょう埃にまみれた聖書を引っ張り出してきました。真っ白な心でもう一度ページをめくってみます。手におえなかったときは、また先生に助けを求めることになると思いますので、覚悟しておいてください。

6月になって、加藤孝先生のもとに1通のメールが届いた。

2015年 6月20日

はじめまして。佐倉純子の夫、佐倉圭介です。妻、純子は5月に永眠いたしました。純子は昨年末から吐き気と倦怠感がひどく、体力が衰え、抗癌剤も打てない状況でした。活動的だったぶん、家事さえまともにできなくなってしまった自分を歯がゆく感じていたようです。4月に入り、体調のよいとき、母親と娘夫婦と初孫らで花見に白浜の平草原に行き、温泉で一泊でき、純子も喜んでいたのですが、帰ってしばらくすると、容態が急変し、入院を余儀なくされました。病院では一切の延命治療は拒否し、痛みを取る治療に専念しました。モルヒネ系の薬も含め、鎮痛剤がためらいなく投与されました。意識が混濁することが多くなり、5月18日のよく晴れた朝、純子は静かに息を引き取りました。先生に送っていただいた聖書は純子の傍らに置かれていましたが、純子が神に触れることができたのかどうかはわたしには分かりません。わたしには純子にとっては先生の存在が神からの贈り物だったような気がしてなりません。いろいろな面で支えてくださって心から感謝しています。

くれぐれも健康にお気をつけて、与えられた日々を大切にお過ごしください。

<了>